

9月定例会を 振り返って

会派の意見

市民クラブ

市民一人一人の 小さな声と小さな願いを 大きく育てる岡崎市政に！

竹内千賀子議員は、鳥取ルー

プ・示現舎による「全国部落調査」の発刊・販売は、部落差別を助長し長年の運動や行政の取り組みを台無しにする行為であるとして、対応を求めた。市長は「差別意識の問題が同和問題の最後の壁。あらためてその壁の厚さを認識した。問題解決に向けて一層の人権教育・啓発を進める必要がある」と答弁。

深瀬裕彦議員は、2014都市計画マスタープランにおいて、防災道路の整備に関して追記された部分は防災対策部と協議していないことを明らかにし、その部分をマスタープランから削除が凍結すべきと迫った。その他、緊急避難場所で一定期間滞在するための対策や、春野郷土資料館の運営、農道・水路の維

持管理などについて質問した。岡崎豊議員は、道の駅構想についての地元説明会が開催されたものの、その経過が不透明なことや事業の進め方に対する不信任や不満の声があるため、アンケート調査の延期や、時間をかけて地元と協議を行うことを提案した。また、桂浜公園整備事業と競合することについては、喫緊の課題である桂浜公園整備を優先して行うとの答弁があった。

日本共産党

「マスタープラン」決裁偽造を 告発、「西敷地」矛盾を指摘

一般質問ならびに議案の討論に全7議員が登場。道の駅構想には、改ざんされた都市計画マスタープランの決裁文書が2年近く経って作成され、退職者が押印するなど重大な問題があるとして、公文書偽造の疑惑を市長にたどした。新図書館西敷地について、利活用検討委員会に広場として活用するとの国の認定済み計画を示さず、50年の定期借地権と土地の高度利用が前提となる検討を押し付ける矛盾を指摘し、撤回を要求。本市の農業振興と食の安全確保のため、TPP批准に反対。子どもの居場所としてのこども食堂への支援を求め、約束へ。待機児童解消のため、任期付保育士の採用試験見直しによる保育士確保を求めた。介護保険の軽度者外し

新風クラブ

3議員が市政をたどす！

・自衛隊OBを職員採用へ
南海トラフ地震への組織対応策として自衛隊OBの職員採用を提言した平田文彦議員に対して、山本総務部長は一貫重なり知識を有する自衛隊OBを採用することは非常に有効である。すでに自衛隊高知地方協力本部に人選をお願いしており、早期採用を目指したい」と答えた。
・高知競輪 経常赤字を解消
決算の認定議案のうち、収益事業特別会計の累積赤字問題をたどした清水おさむ議員に対して、岡崎市長は「りようまスタジアム建設費用負担を除く競輪事業で生じた過去の累積赤字は、5期連続の黒字決算によって解消できた。関係者の皆様に感謝を申し上げる」と答えた。
・南部地域振興の夢を語る
南部地域（長浜、浦戸、御量瀬）が直面する著しい人口減少と急速な高齢化、巨大津波への対応という課題を指摘すると

もに、その対策としての振興策と今後の住民合意の手法についてたどした中澤はま子議員に対して、岡崎市長は「道の駅構想については、あらためて地元との協議の場を設けて意見を伺っていきたい」と答えた。

公明党

市民の目線で行政課題を指摘

伊藤弘幸議員は、老朽水道管路の敷設替え状況を追及。避難所等への送配水管を優先し、財政の効率化も検討して計画的に取り組む方針が示されました。
大久保尊司議員は、本市の子どもの貧困について質問を行い、市長から「子どもの未来を保障していくことは全面的に支える必要がある、さらなる充実を図る」との答弁を得ました。

西森美和議員は、福井・初月地区の浸水対策を提言。市長は「内水シミュレーションによる効果的な対策を検討」と答弁。河川計画と調整し、実効性あるものとするよう強く求めました。

寺内憲資議員は、スマホを活用した長期浸水対策事業について、システム導入を前提に実証実験費用全額を本市が支払うことの見直しを市長に求めました。

高木妙議員は、下知ポンプ場の更新について質問し、平成32年をめどに着手する旨の答弁を得ました。また、動物愛護行政の適正な取り組みと、センター建設について確認しました。

新こうち未来

補正予算案の修正案を提出。

個人質問に氏原議員、福島議員、川村議員、浜口議員が登場。氏原議員は、よさこい祭りの追手筋敷席について、ミスト散布による暑さ対策と無料化の提案を行った。福島議員は高齢者支援施策における地域包括支援センターの拡充を求め、執行部から今後増設などの見直しを行うとの答弁を得た。川村議員は、北山県立自然公園内への太陽光発電施設の建設による網川への赤土の流出について、土地保全条例の問題点を指摘した。浜口議員は高知特別支援学校で昨年度発生した虐待案件を受け、教育委員会に改善を求めた。また、補正予算案の修正案の提案理由として、長期浸水エリアの孤立避難者把握事業費において導入するシステムが実験段階であること、実証実験費用300万円を本市が全額負担しなければならぬことを挙げた。

みどりの会

近森議員は仕事早いとうわさ

市民と一緒に高知市をすてきな街にしていきたいため、道路補修や落書き消し、反射灯の整備が必要箇所の写真と住所をフェイスブックで受け取り、すぐ関係部署に伝える仕組みを作りました。皆さんも近森正久フェイスブックへ情報をお願いします。